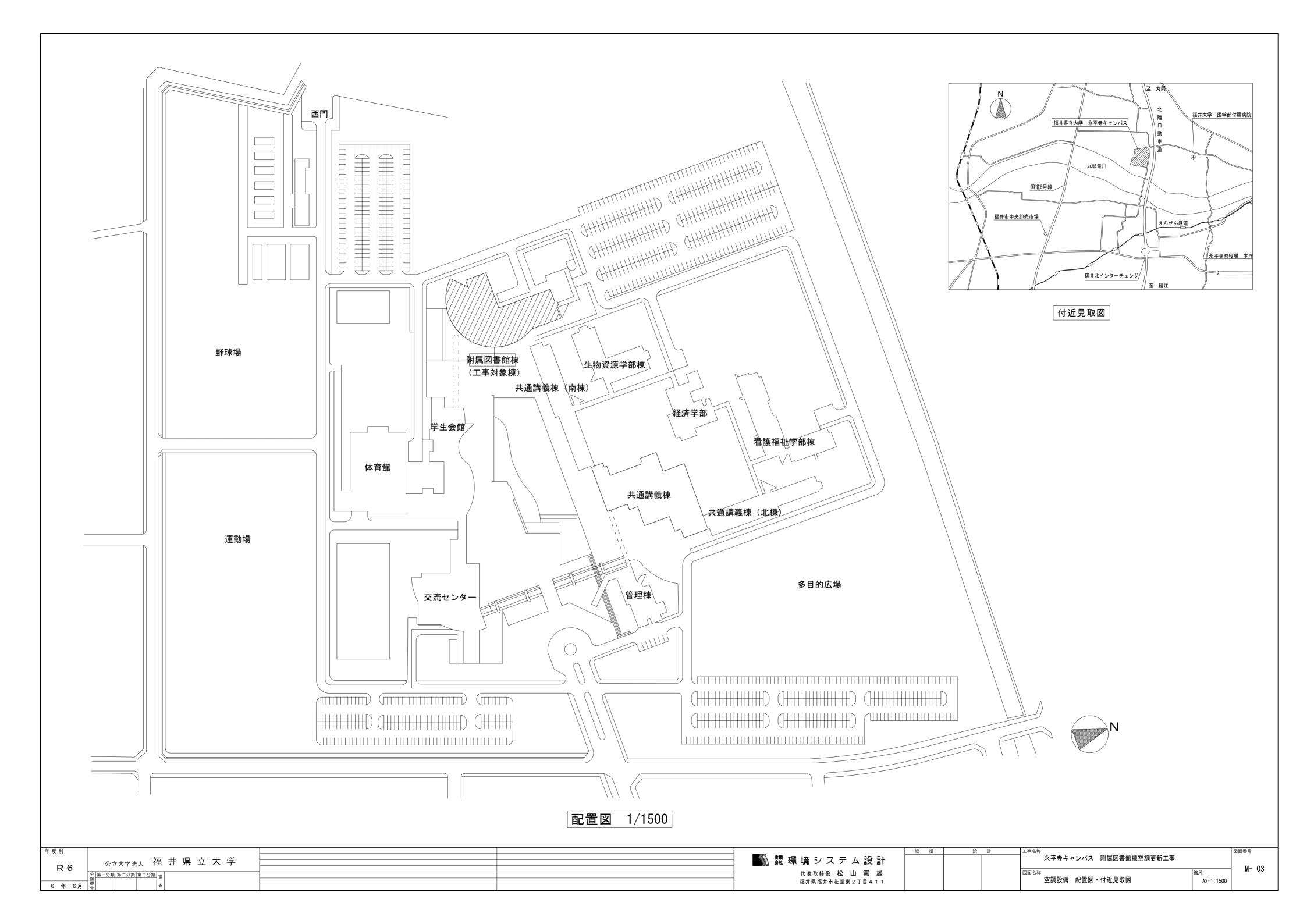
永平寺キャンパス 附属図書館棟空調更新工事

図面番号	図面名称						
M-01	機械設備工事特記仕様書1						
M-02	機械設備工事特記仕様書2						
M-03	空調設備 配置図・付近見取図						
M-04	空調設備 1階平面図(改修前、後)						
M-05	空調設備 2階平面図(改修前、後)						

年 度 別			総括	設計	工事名称	図面番号
R 6 6 年 6月	公立大学法人 福井県立大学 分類 第一分類 第三分類 第三分類 審 審 書 金	加 環 境 シ ス テ ム 設 計 代表取締役 松 山 憲 雄福井県福井市花堂東2丁目411			永平寺キャンパス 附属図書館棟空調更新工事 図面名称 表紙・図面目録	縮尺 A2=

F. F. F.		●工事用資材の選定	工事材料や物品等の調達においては、福井県内に主たる営業所を有する老の由からの調達な	●発生材の処理等	(1) 標準仕様書第1編 1.3.9 または改修標準仕様書第1編第5章による。	●完成時の提出図書等	
ではある。官公署等への諸手続および費用は受注者の負担とする。 対し対断等の処理を行う。 全性技術者等の資格 別に示す公告等による。 対しがます。 ではある。官公署等への諸手続および費用は受注者の負担とする。 大の他の資料 PDF形式 その他の資料 PDF形式 の溶接接合は標準仕様書第2編2.5.15 または改修標準仕様書第2編2.3.16 におる。	工事 概要	●設備機材を持たである。 ●設備機材を持たである。 ●では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	本工事に使用する設備機材等は、設力に関いている。または、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の実施を受けるものとし、証明となる資料をたけが開始が発行する資料を必要と整ち情報をに提出して来越を受けるものとする。(1) 品質といて無いで、受別料金の多しを管符機具に提出して来越を受けるものとする。(1) 品質といて無いで、受別料金の多しを管が機関に提出して来越を受けるものとする。(3) 安定の状態が可能があること。(3) 安定の状態が可能があること。(4) 法今年で定めら計可、認可、設定または免許等を取得していること。(5) 聚達または建立の実情があり、その信器性があること。(6) 原外、保守等の営業体制が整えられていること。(7) 原子、保守等の営業体制が整えられていること。(7) 原子、保守等の営業体制が整えられていること。(7) 原子、保守等の営業体制が整えられていること。(8) 原外、保守等の営業体制が整えられていること。(8) 原外、保守等の営業体制が整えられていること。(9) 原外、保守等の営業体制が整えられていること。(9) 原外、保守等の営業体制が整えられていること。(9) 原外、保守等の営業体制が整えられていること。(9) 原外、保守等の営業体制が整えられていること。 「お工事に使用する材料等は、設計開露に規定する所来の品質および性能を有すると共に、20 (1) から(4) を満たすものとです。(1) 合成、大賞系フローリング、構造用ハネル、集成料、単板機関材、MDF、パーティクルボード、その他の木質製料、ユリア相間能、望起、接着制、保湿料、緩垂材、断熱料、接張、仕上塗材は、アセトアルデモド及びスチレンを発散しないび以及検数が振めて少ない材料を使用する。(3) 接着附近の塗料は、トルエン、キシレン及びエチルペンがの含有量が少ない材料を使用する。(3) 接着附近の塗料は、トルエン、キシレンの含有量が少ない材料を使用する。(4) (1) の材料を使用して行られた業具、差別、実験を、その他の付着期等は、ホルムアルデモド、アモアルデモドンの大手がしているの場では、1) 施門 第24年を使用している場合は、10 が表別を開発している場合は、20 が表別を開発している場合は、20 が表別を開発している場合は、10 が表別を開発している場合は、10 が表別を開発している場合は、20 が表別を開発している場合は、20 が表別を開発している場合は、20 が表別を開発したいるが表別を開発している場合は、20 が表別を使用したる。 原本性性毒素 1 編 1.3 5 5 よ 5 1 1 3 8 ま た 1 2 4 1 1 1 1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	〇建設発生土の処分 〇環境への配慮 〇ブ分録表の記購入出 一表の提出ステム ○情報共有システム ○電子納品	第1章 元とを書するもの 第2 (一般事項	電子納品によるほか、提出部数および作成株式等は下記のとおりとする。
(O配管 (配管工事) の選用 の過用 の通用 の通用 の連発板金 (ダクト製作および取付け) フラダル (の配管 (配管工事) の (本のでは、) (の記事でも、) (の記事でも、) (の記事でも、) (の記事でも、) (の記事でも、) (の記事では、) (の記事でも、) (の記事でも、) (の記事でも、) (の記事でも、) (の記事でも、) (の記事でも、) (の記事では、) (の記事でも、) (のますを、) (のま	監理技術者および主任技術者(下請負を含む)および元請業者の専門技術者は、工事現場内において、工事名、工期、顔写真、氏名、所属会社名、社印および発行年月日が記載された名札を着用する。 「公署その他への手続」 工事に必要な官公署等への手続きは標準仕様書第1編1.1.3又は改修標準仕様書第1編1.1.3 による。官公署等への諸手続および費用は受注者の負担とする。 「任技術者等の資格」 「以下す公告等による。 「公適用する」 「公直管(配管工事)」 「公建築板金(ダクト製作および取付け)	●後片付け ●撤去 - ○再使用機材	固定された備品、机・ロッカー等移動・復旧 〇行う 数量等 () ※行わない標準仕様書第 1 編 1.3.11 または改修標準仕様書第 1 編 1.3.11 による。撤去を行う場合は、改修標準仕様書第 1 編第 4 章によるほか、次による。工作物撤去後の補修は (※モルタル補修 〇) とする。機器・配管・ダクト等の撤去後のアンカーボルトや吊ボルトについて、保守に支障が無いように切断等の処理を行う。取外し後再使用する機材は、改修標準仕様書第 1 編 1.4.3 による。なお、ファンコイルユ		完成写真 JPEG形式 (注3) 工事実績情報 PDF形式 工事の一時中止 PDF形式 工期の変更 PDF形式 文化財その他埋蔵物 PDF形式 その他の資料 PDF形式 (注4) 工事写真 (除届出書、現場指示書は契約関係資料に入れる。それ以外については手引きによる。	○フレキシブルジョイント○既設配管の再生を行う場合の留意事項	※ベローズ形

〇屋外埋設配管	標準仕様書第2編 2.7.1 または改修標準仕様書第2編 2.5.1 による。	●方式	〇全空気方式 (〇中央 〇各階ユニット)	〇排気フード	排気フードの補強、支持金物、接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、	表一 1 「配管材料区分」
	(1) 埋設深度は、次のとおりとする。ただし、寒冷地では凍結深度以上とする。		○ファンコイル・ダクト併用方式 ●個別方式		材質は下記による。 ※ステンレス鋼板(補強共) 〇亜鉛鉄板	## 1
	※車両道路(構内車両道路程度) 地表面から 600mm 以上	〇主要熱源機器	機器 〇吸収冷温水機 〇チリングユニット 〇ボイラー		排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。	ボイラー室への
	O 地表面から mm 以上		●空気熱源ヒートポンプユニット Oコージェネレーション装置	換	※本工事 O別途工事	補給水管 O耐熱性ライニング鋼管 O塩ビライニング鋼管 (SGP-VA, SGP-FVA)
	(2) 配管下端(管底-100mm) および配管上端(管頂+100mm) に砂地業(山砂類または再生材)を施したあと、根切り土の中の良質土で埋戻す。		○空冷ヒートポンプ式パッケージ形空気調和機(○EHP ○GHP ○) 燃料 ○灯油 ○ A 重油 ○ L P G ○都市ガス ●電気[○深夜電力] ○ペレット	気	グリースフィルターの予備 O要 ※不要	冷却水管 ※配管用炭素鋼鋼管 (SGP白) 〇ステンレス鋼管 〇耐熱性ライニング鋼管 〇塩ビライニング鋼管 (SGP-VA, SGP-FVA) 〇ポリ粉体ライニング鋼管
	(3) 管を埋戻す場合は、土被り150mm程度の深さに埋設表示用アルミテープまたはポリ	●設計時の温湿度条件	場所屋外	設 0	外気取入ダクトの保温(空調を行っている室について) ※要 O不要	蒸気給気管 ※配管用炭素鋼鋼管(SGP黒) 〇圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG黒)
	エチレンテープ等を埋設する。ただし、排水管は不要とする。			備	全熱交換器までの室外側ダクトの保温(空調を行っている室について) ※要 〇不要	蒸気還管 ※圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG黒) 〇ステンレス鋼管
	(4) 曲りおよび分岐部には地中埋設標を打込むこと。		時期 温度(DB) 湿度(RH) 温度(DB) 湿度(RH) 温度(DB) 湿度(RH) 湿度(RH) 夏期 35.4 ℃ 63.0 % 26 ℃ 50 % ℃ %		全熱交換器以降の室内側ダクトの保温(空調を行っている室について) 〇要 ※不要 上記以外で外気取入ダクトに保温を行う室: 室	油 管 (一般配管) ※配管用炭素鋼鋼管 (SGP黒) " (地中配管) ※ポリエチレン被覆鋼管 〇ステンレス鋼管
〇屋内埋設配管	(1) 給水、ガスおよび消火配管は、土間コンクリート直下の地業部分に配管し、周囲を砂で		冬期 -1.0 °C 81.4 % 22 °C 40 % °C %		保温を行う場合の仕様は標準仕様書第2編第3章第1節による。	空調用給水管 ※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP)
	埋戻す。	●ダクトの種別	※低圧ダクト O高圧1ダクト O高圧2ダクト			〇ステンレス鋼管(SUS304)(呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合)
	(2) 排水管も上記に準じ、配管上部の地業は砂に置き換える。 (3) 配管は原則として、土間コンクリートより吊りボルトにて吊り下げる。吊り間隔は屋内	●ダクトの工法	○アングルフランジエ法 ○コーナーボルトエ法 (○共板フランジエ法 ○スライドオンフランジエ法)	○排煙対象部分 ○ダクトの種別	O廊下 O事務室 O図示 最大面積 m² O高圧 1 ダクト O高圧 2 ダクト	○ポリ粉体ライニング鋼管 ○塩ビライニング鋼管(SGP-VA, SGP-FVA) 空調用排水管 ※排水用硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ○配管用炭素鋼鋼管(SGP白)
	(3) 配管は原則として、工间コングリートより市りパルトにて市り下げる。市り间隔は座内 配管に準ずる。		(ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分)	〇ダクトの程別	○同庄 / すりト ○同庄 2 すりト ※アングルフランジエ法	空調用排水管 ※野熱材被覆銅管 ○銅管 ○圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG黒)
		〇ダクトの分岐方法	給気用ダクト O割込み方式 O直付け方式	Oダクトの材料	※亜鉛鉄板製 O普通鋼板製	パッケージ形空気調和機の2次側配線の仕様は製造者の標準仕様とする。
●保温および塗装	(1) 標準仕様書において、ロックウール保温材、グラスウール保温材及びポリスチレンフォー	●担用おしが会計	排気用ダクト 〇割込み方式 〇直付け方式	│ ⁷⁷	(1) 形状 ○スリットフェース形 ○パネル形 ○ダンパー形 (2) 排煙口の開放 ○手動 (○機械式 ○電気式) ○煙感知器連動	給水配管 一般配管 ※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) 〇ポリ粉体ライニング鋼管 〇ステンレス鋼管(SUS304)(呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合)
	一ム保温材が併記されている箇所は、いずれかを使用する。 (2) 屋外露出配管(冷媒管を除く)の保温外装材は次による。	●保温および塗装(図面特記部分は除く)	「標準仕様書または改修標準仕様書の当該事項による。ただし、次の部分は本仕様とする。 1) 冷媒管の保温外装は次による。	設	(3) 復帰装置 〇手元復帰式(〇手動式 〇電気式) 〇遠方復帰式	Oステンレス調管 (SIOSOU) (呼び径00SU以下は拡管式、呼び径7SSU以上は溶接接合) O塩ビライニング鋼管 (SGP-VA, SGP-FVA)
	Oステンレス鋼板 O溶融アルミニウム・亜鉛鉄板	単独	配管 隠ぺい部 ※不要 〇要 〇保温化粧ケース(塩化ビニル製) 〇合成樹脂製カバー1	備	(4) ダンパー本体および操作箱との渡り配線は本工事とする。	地中配管 ※水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP) 〇塩ビライニング鋼管(SGP-VD, SGP-FVD)
	(3) 屋内露出配管(冷媒管を除く)の保温外装材は、原則、合成樹脂製カバー1とする。 (4) 弁・ストレーナなどの金属製カバーおよびタンク類の保温外装材の種別は、次による。	屋	露出部 ※要 〇保温化粧ケース(塩化ビニル製) 〇合成樹脂製カバー 1	0/12/19	ウェントが映海中の伊温 (南三) ツェボ	〇ステンレス鋼管(SUS316)(呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合)
	(4) 升・ストレーデなどの金属製ガハーおよびタング類の保温外表材の種別は、次による。 〇ステンレス鋼板 〇溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 〇アルミニウム板		配管 隠ぺい部 ※不要 〇要 〇保温化粧ケース(塩化ビニル製) 〇合成樹脂製カバー 1 露出部 ※要 〇保温化粧ケース(塩化ビニル製) 〇合成樹脂製カバー 1	○保温	床下および暗渠内の保温 O要(図示) ※不要	〇水道用ポリエチレン二層管 (呼び径50以下) 〇水道配水用ポリエチレン管 (JWWA K144(継手は電気融着式)) (呼び径75以上)
	〇アルミニウム板	単独	配管 ○ステンレス鋼板 ○溶融アルミニウム-亜鉛鉄板	〇取付高さ	洗面器、手洗器の取付高さ(床面より前縁上端まで)は次による。ただし、身体障害者用器	排水配管 屋内雑排水管 ※硬質ポリ塩化ビニル管(VP) 〇排水用塩ビライニング鋼管
	(5) 車庫に露出のダクトおよび配管の保温は、機械室による。	屋がある	○保温化粧ケース (○樹脂製○溶融アルミニウム-亜鉛鉄板製○ステンレス鋼板製)	在	具は除く。	(地中埋設部)〇リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP)
	(6) 各場所に露出の保温を施さないダクトおよび配管の塗装は以下による。 外壁廻り ※要 〇不要 書庫 〇要 ※不要		配管 Oステンレス鋼板 O溶融アルミニウム-亜鉛鉄板 O保温化粧ケース(O樹脂製O溶融アルミニウム-亜鉛鉄板製Oステンレス鋼板製)	¶ 生 	洗面器 ※800mm 〇750mm 「標準図」による 手洗器 ※800mm 〇「標準図」による	屋内汚水管 ※硬質ポリ塩化ビニル管(VP) 〇排水用塩ビライニング鋼管 (地中埋設部) 〇リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP)
	屋上階 〇要 ※不要 機械室 〇要 ※不要		屋外における保温化粧ケースの下部カバーは 〇要 ※不要 とする。	具 計		
	車庫 O要 ※不要 一般居室、廊下 ※要 O不要		保温化粧ケースを用いる場合は竪管部にずれ止め固定を施す。	図	(1) 大便器の紙巻器、便器洗浄ボタン、呼出ボタンの配置は JIS S0026 による。	通 気 管 ※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)
	倉庫 〇要 ※不要 (7) 合成樹脂製支持受 ※硬質ウレタンフォームに準ずるもの		2) ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3) 弁・ストレーナなどの金属製カバー外装種別は、次による。	器具配置 公給水方式	(2) 洗面器の水栓は自動水栓とする。 〇水道直結方式 〇高置タンク方式 〇ポンプ直送方式	〇リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) 〇排水用塩ビライニング鋼管 〇配管用炭素鋼鋼管(SGP白)
	〇ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの	屋内	※カラ―亜鉛鉄板 〇溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 〇ステンレス鋼板 〇アルミニウム板		〇増圧ポンプ方式	ポンプアップ排水管 [汚水・雑排水] ※塩ビライニング鋼管(SGP-VA、SGP-FVA) 〇コーティング鋼管
		屋外	Oカラ―亜鉛鉄板 〇溶融アルミニウム・亜鉛鉄板 ※ステンレス鋼板 〇アルミニウム板	76	〇飲料水系統の弁類は厚生労働省基準に準じた鉛レスとする。	[湧水] ※塩ビライニング鋼管(SGP-VA、SGP-FVA) O配管用炭素鋼鋼管(SGP白)
	3	空	4) エアー抜き管の保温厚は20mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また保温を 行う範囲はエアー抜き弁までとする。	① 〇水栓柱 微 一〇水栓柱	〇合成樹脂製 (70×70×1300H) 〇ステンレス製 ()	継手はフランジまたはハウジング形継手とする。 (ただし汚水・雑排水槽内は塩ビライニング鋼管 (SGP-FVD) とする。)
〇吹出口および	ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製と	≅र	17) 和湿用給水タンクの保温は膨張タンクに準ずる。	-119	特記なき場合、水栓の取付け高さは約600mmとする。	(地中埋設部) [屋外] 〇硬質ポリ塩化ビニル管(VP)
吸込ロボックス	する場合は JIS A 4009 (空気調和および換気設備用ダクトの構成部材) によるものとし、	in a	6) 油管の地中埋設管は標準仕様書第2号第2章第7節2.7.3 (3) による。	〇加入金等	〇要(〇本工事 〇別途工事) 〇不要	衛生器具との接続管 ※硬質ポリ塩化ビニル管(VP)
	厚さ 0.6mm 以上の亜鉛鉄板で補強を施したものとする。 ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。	Jāj	7) 膨張管・補給水管の保温は冷温水管に準ずる。 8) 保温を施す膨張タンク等のふたの保温は ※要 〇不要とする。	〇排水方式	名称: 汚水と雑排水 [屋内] 〇分流式 〇合流式	〇リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) 配管材においてリサイクル材料が指定された場合、規格サイズがないものについては、リサイクル材料
〇エポキシ樹脂	ポックスの市りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督戦員との協議による。 エポキシ樹脂コーティングおよびライニングの乾燥方法は次による。	F O	9) 下記部分の冷却水配管は、保温(防露)を行い、仕様は温水管の項による。	() () () () () () () () () ()	汚水と粧排水 「屋内」 〇分流式 〇合流式	配管材においてリザイグル材料が指定された場合、規格サイスがないものについては、リザイグル材料を使用しなくてもよい。
井 ライニング	※加熱乾燥 〇常温乾燥	n)		ポンプ排水 〇有り(〇汚物 〇雑排水 〇汚水 〇浄化槽2次側)	給湯配管 ※銅管 (壁または床埋設をする場合は、保温付被覆銅管を使用してもよい。)
●電線類および電線管 通	電線類および電線管等については標準仕様書第4編第1章第5節による。 電線類は原則としてEM電線およびEMケーブルを使用する。	X	10) 還りダクトの保温は、保温厚さ25mmとし、範囲は図示による。 11) 外気ダクトの保温は、保温厚さ25mmとする。	排		〇ステンレス鋼管(SUS304) 〇ステンレス鋼管(SUS316) (呼び径 60Su 以下は拡管式、呼び径 75Su 以上は溶接接合)
Oボックス	電線類は原則としてEM電線およびEMゲーブルを使用する。 樹脂管で配管する場合は、合成樹脂製ボックスを使用する。	楠	・・/ /Fスルとノージが温は、体温序でも3川川にする。	小 つぶが元 設	(2) 雑排水 〇直放流下水管 〇浄化槽 〇別途桝(建築工事)	消火配管 一般配管
○容量等の表示	機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。	〇温度計	温度計は(※工業用バイメタル式温度計 〇ガラス製棒状温度計 〇)	1 1/19	(3) 雨水ポンプアップ 〇直放流下水管 〇雨水側溝 (建築工事) 〇雨水桝 (建築工事)	地中配管 [屋内および屋外] ※外面被覆鋼管 (SGP-VS)
用	但し、電動機の出力、燃料消費量および圧力損失は表示された数値以下とする。 電動機出力が0.75kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、JISC 4213 (低圧三相		とし、取付部は下記による。 〇冷凍機の冷水管(送り、返り)および冷却水管(送り、返り)		(4) 湧水ポンプアップ 〇直放流下水管 〇雨水側溝(建築工事) ○雨水桝(建築工事)	特殊消火管 ※圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370 白 Sch80) ガス管 屋内配管 ※配管用炭素鋼鋼管(白) 〇合成樹脂被覆鋼管
しの特电划版	電動機出力が0.75kW以上の低圧三相がこ形誘導電動機の規格は、JIS C 4213 (低圧三相 かご形誘導電動機-低圧トップランナーモータ)による。		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	〇負担金	〇要(〇本工事 〇別途工事) 〇不要	ガス管 屋内配管 ※配管用炭素鋼鋼管 (白) 〇合成樹脂被覆鋼管 屋外配管 ※ポリエチレン管 ○被覆鋼管 (PS)
項 ○スリーブ	柱、梁および耐震壁以外の箇所で、開口補強が不要、かつ、スリーブ径が200々以下の		〇ポイラーの温水管(返り)		名称:	注 図面特記部分は除く。
目	部分にする場合は、紙製仮枠を使用してもよい。その場合は、変形防止の措置を講じ、かつ		〇空気調和機の冷温水管(送り、返り) および三方弁装置後の冷温水管(返り)	〇給湯方式 合 〇保温	○中央式 ○局所式 (1) 膨張管・補給水管の保温は冷温水管に準ずる。	
●鋼材工事	配管施工前に仮枠を必ず取り除く。 機器付属金物および配管、ダクトの支持金物は標準仕様書第2編第4章第6節または改修標		○熱交換器の温水管(送り、返り) ○冷温水へッダー(往)および冷温水へッダーの各返り管	湯し休温	(2) ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第2編 3.1.5 の表2.3.5 による。	
	準仕様書第2編第7章第5節による。		O空気調和機 (パッケージ形を含む) のサプライチャンバー、レタンダクト、外気取入れ	備		表一2 「工事区分表」
	はつりおよび穴開けを行う場合は、改修標準仕様書第2編第4章による。 復帰方式は ※遠方復帰式	〇圧力計	ダクトおよびレタンチャンバー 取付部は下記による。	○消火設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火() ○連結送水管 ○連結散水 ○フード等用簡易自動消火装置 ○屋外消火栓 ○消防用水	工 事 内 容 建築 電気 機 械 sp. 屋内基礎 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■
防火防煙ダンパーのよび	②原介式は	〇圧ガ 酐	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	消火	○理和医外官 ○理和軟外 ○ノート等用間易自動消火装直 ○産外消火柱 ○消防用水	
〇消音内貼	ダクトおよびチャンバー、消音エルボの内貼り(箇所図示)は次による。		〇空気調和機の冷温水管 (送り、返り)	設 〇保温	消火用充水タンクの保温を ※施工する (膨張タンクによる) ○施工しない	機器屋外基礎 ●
	(1) 消音内貼り部分の外部保温は 〇要 ※不要		〇直だき吸収冷温水機の冷温水管(送り、返り)および冷却水管(送り、返り)	Prid	消火用呼水タンクの保温を ※施工しない 〇施工する (膨張タンクによる)	基 架台、アンカーボルト
	(2) チャンバーの寸法は、外形寸法を示す。 (但し、ダクトおよび消音エルボは、内形寸法を示す。)	〇瞬間流量計	○熱交換器の温水管 (送り、返り) ピトー管方式によるもので止水コック付とし、形式および取付部は下記による。	○ガスの種類	屋外露出管の保温を ※施工する(給水管の保温仕様に準ずる) ○施工しない ○液化石油ガス(※50kg ○20kg)	等 特記した基礎
	(3) 空気調和機に取付けるサプライチャンバー、レタンチャンバーおよびダクト系で消音内		なお、着脱形支持部は(O40A用 個 O100A用 個 O250A用 個)	#	O都市ガス (発熱量 K J / m³(N))	S・SRC造梁の貫通部 補強 ●
O叶山豆面里逐如笠の	貼りしたチャンバーには、内貼り仕様または断熱戸の点検口を設ける。		附属とする。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ストカ畑乳等の持入士	ガス供給事業者名:	スリーブ
〇防火区画貫通部等の 処理	(1) 標準仕様書第 2 編2.8.1(1) または改修標準仕様書第 2 編2.6.1(1) による。 (2) 大臣認定を受けた工法で施工する場合は、認定書の写しを提出し、監督職員の承諾を受		○冷凍機の冷水管および冷却水管(送りまたは返り)に(○固定形 ○着脱形)を設ける。 ○直だき吸収冷温水機の冷温水管および冷却水管(送りまたは返り)に	設 〇土中埋設管の接合方	法 〇ネジ接合 〇SGM工法 〇PE管工法 ※溶接接合 ※	RC造梁・床・壁の貫通部 補強 ●
	けるとともに、認定工法の表示を行う。		(〇固定形 〇着脱形)を設ける。	〇負担金	〇要(〇本工事 〇別途工事) 〇不要	備 用 型枠 ● ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■
〇取付枠	防火区画部に取り付ける吹出口、吸込口等で取付枠を必要とするものは鋼枠を使用する。		〇空気調和機の冷温水管(送りまたは返り)に(〇固定形 〇着脱形)を設ける。	自の工事範囲の影視方式	○配管 ○配線 ○機器取付 ○機器移設・改設 ○取外し再取付	開 軽量鉄骨下地天井・壁の開口部 補強 ★☆★・恵士・ストロン 4
○防火区画 ○掲示板	○平面階 ○図示 ●防災計画図参照 機械室に操作順序、注意事項、連絡先および系統図などを記入した掲示板を設ける。	○鋼板製煙道	〇冷温水ヘッダーの(〇送り管 〇各返り管)に(〇固定形 〇着脱形)を設ける。 厚さ 〇3.2mm 〇4.5mm	動 ○監視方式 制 御	○警報盤 ○簡易形監視制御装置 ○中央監視制御装置 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	部 補強を要する切込み ● 補強を要しない切込み ● ● ●
0.7-3.7.1117	図面に特記なき場合は、表-2「工事区分表」によるほか、機器の設置位置等取り合いの検	〇ぱい煙濃度計	〇設けない 〇設ける (電源はボイラー制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む)			貫通部・開口部の穴埋め補修 ●
	討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。		※ファン付き 〇ファンなし	**************************************		貫通部・開口部の墨出し □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
●総合調整	下記の項目について調整する。	○ばいじん量測定口 ●空調用ドレン管	煙道の直線部に80 φ以上のフランジ付きの検査口を設ける。 空調用ドレン管は通水試験を行う。			床、天井点検口 ● そ 防 油 堤 オイルサービスタンクの防油堤
→小○□四型正	●空気調和設備 ○風量調整 (測定共) ○水量調整 (測定共)					の 外部取付ガラリ ダクト、チャンバーの接続用フランジ含む ●
	●室内外空気の温湿度測定	〇ダクトの種別 〇ダクトの正法	※低圧ダクト 〇高圧 1 ダクト 〇高圧 2 ダクト			他 雨水排水 配管、桝、蓋
	○室内気流およびじんあいの測定 ○騒音の測定 (屋内外、敷地境界共) ○停電・復電動作確認	○ダクトの工法	○アングルフランジエ法 ○コーナーボルトエ法 (○共板フランジエ法 ○スライドオンフランジエ法)			汚水、雑排水 配管、桝、蓋 ●
	○験気設備 ○風量調整 (測定共) ○受力 ○受力 ○受力 ○受力 ○受力 ○受力 ○受力 ○ <t< td=""><td></td><td>(ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分)</td><td></td><td></td><td>電気機器付属の制御盤以降の配管配線(接地共)●</td></t<>		(ただし、長辺の長さが1,500mm以下の部分)			電気機器付属の制御盤以降の配管配線(接地共)●
	○室内気流およびじんあいの測定	○ダクトの分岐方法	給気用ダクト 〇割込み方式 〇直付け方式			配 機器付属の制御盤への電源供給配管配線 ● 機器付属の制御盤への電源供給配管配線
	○騒音の測定(屋内外、敷地境界共) ○停電・復電動作確認 ○ ○排煙設備 ○風量調整(測定共)	○厨房排気ダクトの板厚	排気用ダクト 〇割込み方式 〇直付け方式 厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は次による。	-		記 機器と専用操作スイッチの渡り配管配線 ●
	○風重調整 (測定共) ○騒音の測定 (屋内外、敷地境界共)	奥	ダクトの長辺 板厚			The state of the s
	O給水設備 飲料水の水質の測定については以下とする。	ā ,	450mm以下 0.6mm			
	○「水質基準に関する省令」による。 ○建築物における衛生的環境の確保に関する法律(以下、「ビ	设	450mmを超え1200mm以下 0.8mm 1200mmを超え1800mm以下 1.0mm			
	の建築物における衛生的環境の確保に関する法律(以下、「ヒートートートートートートートートートートートートートートートートートートート	備	1800mmを超えるもの 1.2mm			
	※厚生労働大臣告示119号 第二の一の1の(4)による。	〇排気ダクトのシール	標準仕様書第3編 2.2.1(6) によるものとし、施工箇所は下記とする。			
	〇雑用水の水質の測定	○消音ボックスは洋風地	○厨房系統 〇浴室(シャワー室、脱衣室を含む)系統 提標準仕様書第3編 1.11.3 の当該事項による。			
	〇維用水の水質の測定 ※ビル管法施行規則第四条の二による	しっロハノノへ門を風像				
丰度 別					卷 括	設 計 工事名称 図面番号
^ - -	_{、学法人} 福 井 県 立 大 学				弧 環 境 シス テム 設 計	永平寺キャンパス 附属図書館棟空調更新工事
R 6	二分類 第三分類 審				代表取締役 松 山 憲 雄	図面名称 縮尺 縮尺
6 年 6月 景	査				福井県福井市花堂東2丁目411	機械設備工事 特記仕様書1 A2= A2=
171	i i i		1			



記号 設 置 場 所 記 号 機器仕様 設 置 場 所 機器仕 1F情報センター長室 空冷ヒートポンプエアコン ウォールスルー床置隠蔽形 AP-1101M 1F情報センター長室 1 7 HP-1 空冷ヒートポンプエアコン ウォールスルー床置隠蔽形 ヒーター付 APP36EA HP - 2共同研究室 共同研究室 冷房能力 3.6(1.8~4.0) kW 暖房能力 4.0(1.4~5.8) kW (ヒーター1.5 kW) 冷 房 能 力 3550 kcal/h 暖 房 能 力 4000 kcal/h 会議室 会議室 (日本ピーマック) 2F 図書整理作業室 2F 図書整理作業室 消費電力 (参) 2.0 kW (3φ200V) 消費電力 1.9 kW (3φ200V) ヒーター 1.5 kW (3φ200V) 情報処理演習室 情報処理演習室 情報センター 給・排気ダクト径 (785×175)×2 冷媒 R410A 給・排気ダクト径 (700×115)×2 冷媒 R22 メーカー標準リモコン リモコン架台(鋼板製)設置箇所は取付箇所、要確認の事 寸法 : W150 × D120 × H(100~250) 附属品一式共(F4液晶パネルR2、タイマーBOX) 床置形工事概要 既設機器撤去、新設 ・ドレン管を機器据付時、既設管に接続 ・ドレン管の保温、ペリカウンター吹出口と機器吹出口をグラスウールダクトにて接続 ・機器への電源配線切離し、機器据付後再接続 ・操作部の位置は監督職員と協議の上決定する 空冷ヒートポンプエアコン 天井吊カセット形 AT - 753M1F 理事室(研究) 1 5 HP - 3共同研究室 冷 房 能 カ 2240 kcal/h 暖 房 能 カ 2500 kcal/h 会議室 帳簿管理室 (日本ピーマック) ネットワーク管理室 図書館長室 消費電力(参) 1.21 kW (3φ200V) 接続ダクト 250¢ 冷媒 R22 メーカー標準リモコン HP-2 空冷ヒートポンプエアコン ウォールスルー天井吊カセット形 ATP32FA 1F 理事室(研究) 共同研究室 冷房能力 3.2(1.5~4.0) kW 暖房能力 4.0(1.4~4.5) kW 会議室 帳簿管理室 ネットワーク管理室 消費電力 1.98 kW (3φ200V) 図書館長室 2F 情報処理演習室 接続ダクト 250 φ 冷媒 R410A オープン利用室 情報センター ドレンポンプキット 丸フランジ カセットパネル 附属品一式共(F4液晶パネルR2、タイマーBOX) 天井吊カセット形工事概要 空冷ヒートポンプエアコン 天井吊カセット形 2F情報処理演習室 HP - 4AT - 1103M・既設機器撤去、新設 オープン利用室 冷 房 能 カ 3150 kcal/h 暖 房 能 カ 4000 kcal/h ・給排気ダクト切断、機器据付後保温付フレキダクトにて再接続 (日本ピーマック) ・既設ドレン管を切断、機器据付後再接続、保温施工 消費電力 (参) 1.90 kW (3φ200V) ・機器への電源配線切離し、機器据付後再接続 ・既設リモコン撤去、新設、リモコン配線は再利用 接続ダクト 250¢ 冷媒 R22 ・天井仕上材取外し、機器据付後復旧(再利用) メーカー標準リモコン 空冷ヒートポンプエアコン ウォールスルー床置隠蔽形 AP - 40AM2F情報センター 2 全機種共通事項 冷房能力表示条件 暖房能力表示条件 冷 房 能 カ 4.0 kW 暖 房 能 カ 4.5 kW (日本ピーマック) 室内側吸込 D. B.2.7℃ 室内側吸込 D.B. 2.0℃ 消費電力 (参) 2.05 kW (3φ200V) W. B.19℃ W. B. 0 °C 室外側吸込 D. B.35℃ 給・排気ダクト径 (700×115)×2 冷媒 R22 室外側吸込 D.B. 7℃ メーカー標準リモコン W. B. 6 ℃ W. B.24°C A T - 3 6 A M 2F 情報センター HP-6 空冷ヒートポンプエアコン 天井吊カセット形 2 冷 房 能 力 3.6 W 暖 房 能 力 4.0 kW (日本ピーマック) 消費電力(参) 2.09 kW (3φ200V) 接続ダクト 250¢ 冷媒 R22 メーカー標準リモコン | 工事名称 | 永平寺キャンパス | 附属図書館棟空調更新工事 年 度 別 弧 環境システム設計 公立大学法人 福井県立大学 R 6

更新後機器表(新設)

1 9

2 5

M - 04

A1=

空調設備 機器表(撤去、新設)

福井県福井市花堂東2丁目411

現 況 機 器 表 (撤去)

第一分類 第二分類 第三分類 審

6 年 6月 日本

